

2008年度経営プラン

2008年5月13日
古河電気工業株式会社
取締役社長 石原 廣司

1. 07年度決算ハイライト
2. 08年度経営プラン
3. セグメント情報

1. 07年度決算ハイライト

07年度決算概要

(単位:億円)

	06実績	07直近予想	07実績	06実績比
売上高	11,047	11,600	11,742	+6.3%
営業利益	536	470	484	-9.7%
経常利益	495	390	408	-17.7%
当期利益	297	175	152	-48.6%
配当	6.5円	7.0円	7.0円	+0.5円
有利子負債	4,282		3,990	-292

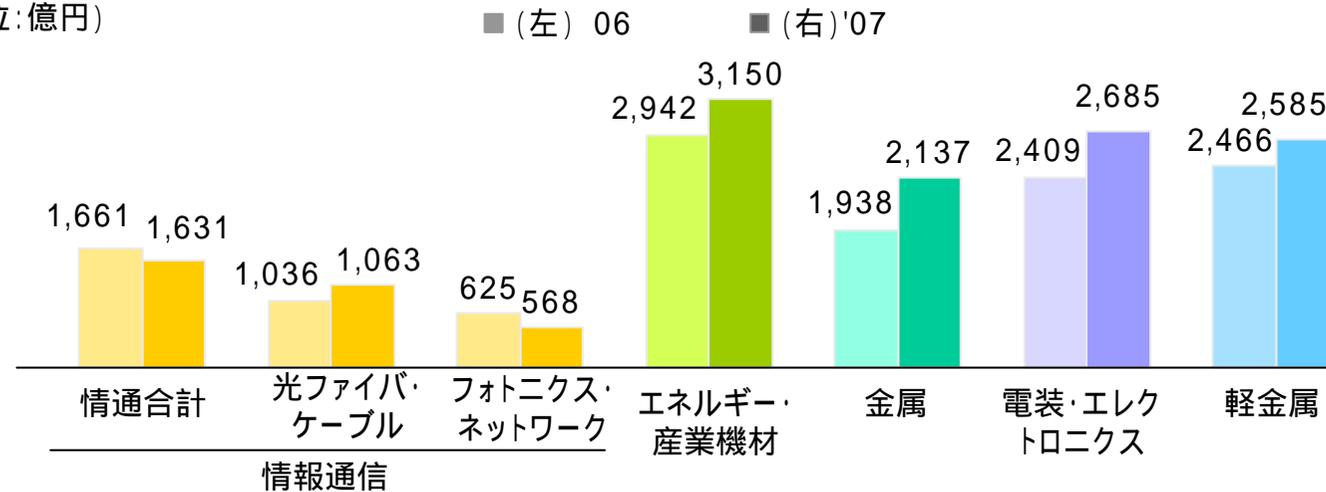
営業外損益以降の変動要因

	06実績	07実績	06/07差	要因
為替差損益	+22	31	53	(円高進行で円建て貸付金による為替損拡大)
持分法損益	+5	+19	+14	(ビスカス、AVCが貢献)
特別利益	+177	+54	123	(土地売却益が減少)
特別損失	93	152	59	(固定資産減損でリスクの前倒しなど)
法人税等	234	115	+119	(OCP社株売却による戻りなど)
少数株主利益	48	43	+5	(OCPの控除減少など)

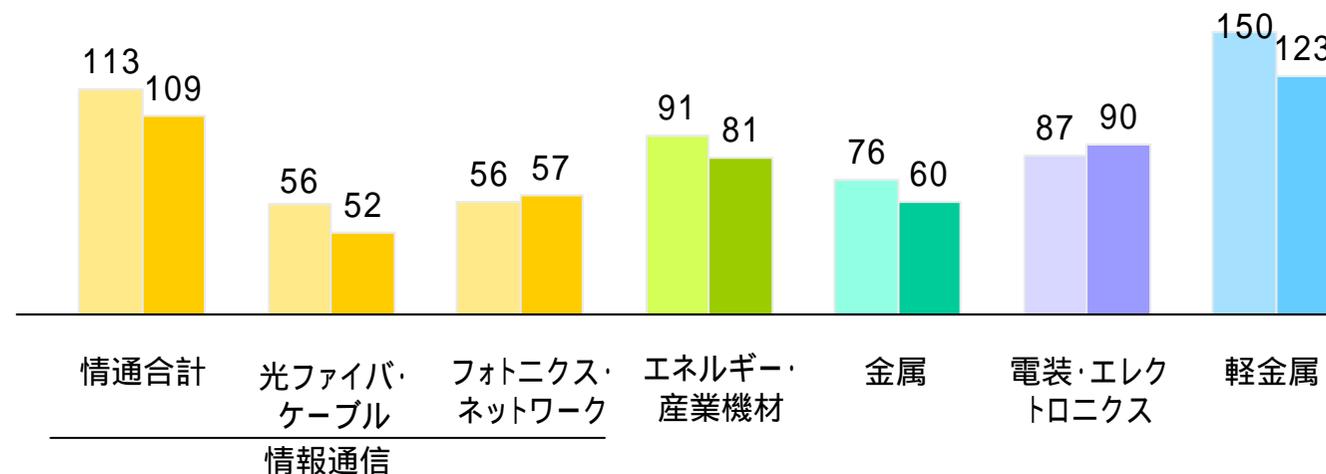
06/07年度 セグメント別売上高・営業利益

売上高
06: 11,047
07: 11,742

(単位: 億円)



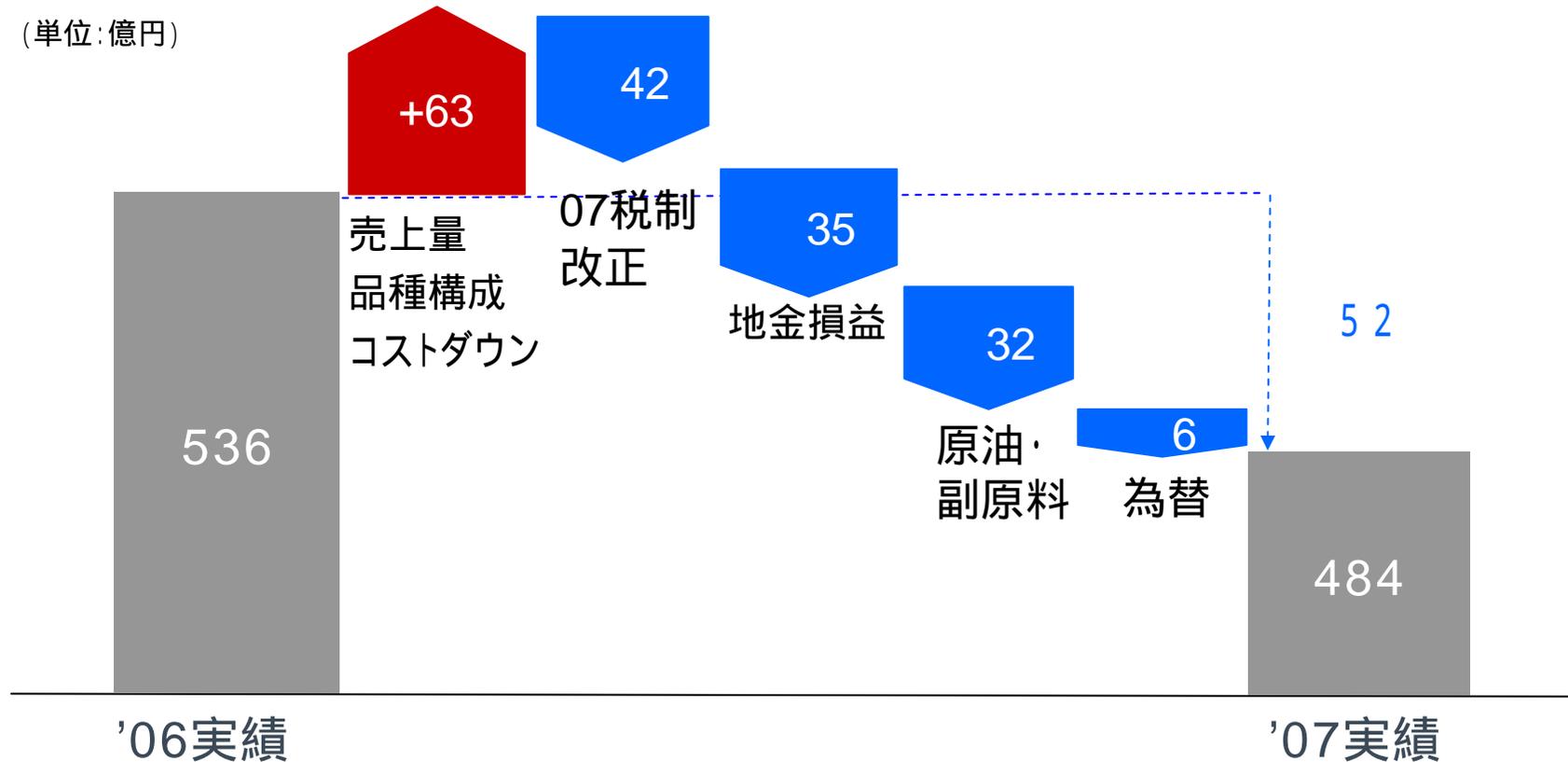
営業利益
06: 536
07: 484



06 / 07実績 営業利益増減の要因分析

要因別：税制改正に加え、地金高、原油・副原料高、円高が影響

(単位：億円)



* 地金・・・銅・アルミ

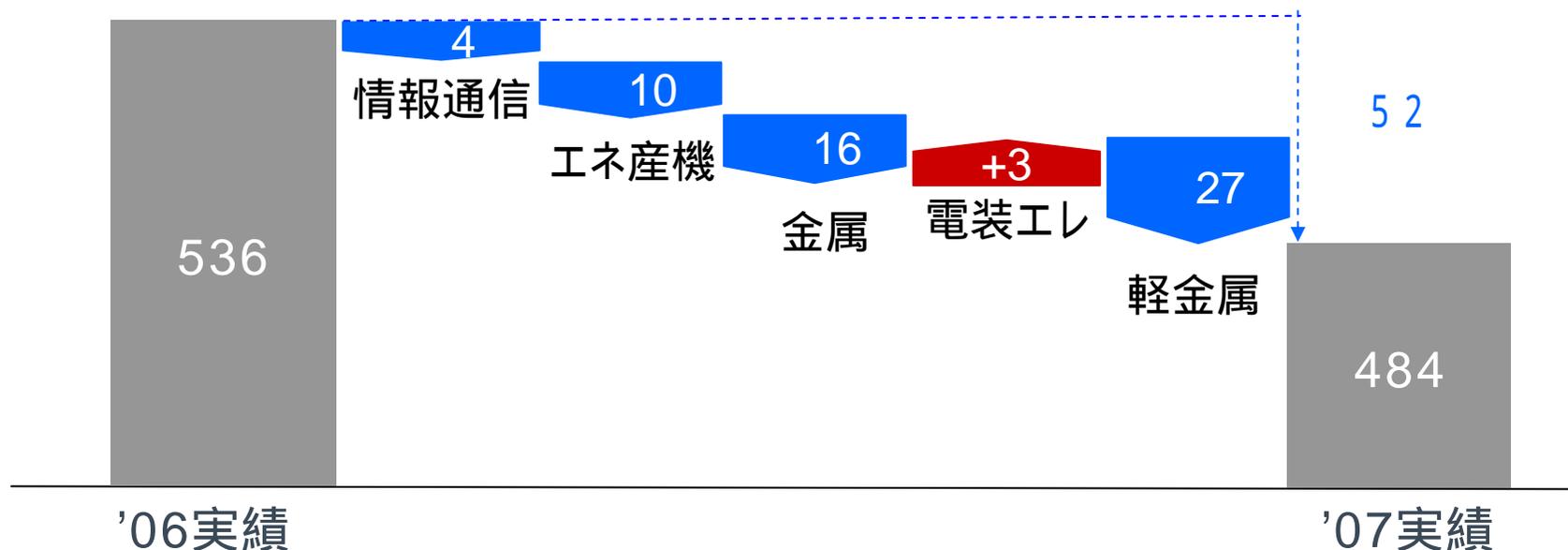
* 原油・・・燃料・石化製品原材料

* 副原料・・・マグネシウム、銀、錫、ニッケルなど

06 / 07実績 営業利益増減の要因分析

セグメント別：軽金属で税制改正、原油・副原料高の影響大

(単位:億円)



06実績比 52 (税制 42 除く税制 10)

情報通信 4 (4 0)

エネ産機 10 (7 3)

金属 16 (8 8)

電装エレ + 3 (6 + 9)

軽金属 27 (16 11)

サービス他を除く

OFS増、国内光ケーブル・ルータ減
発泡製品減、海外電力ケーブル増
副原料コストアップなど

ハーネス・電池増

原油・副原料アップ、アルミ厚板減

成長に向けた07年度の主な取り組み

テーマ	案件
グローバル拡大・増産	OF Sロシアの光ケーブルを増産 半導体テープの能力を倍増 電解銅箔を増産 インド・ミンダ社と自動車部品合併会社設立
子会社の再編	光部品の米O C P社を売却 自動車部品事業を子会社へ集約 理研電線を完全子会社化 F C I J社の電力部品部門を買収
財務改善	カナダ税務当局からの税金還付により有利子負債を削減

主要経営指標の推移

(単位: 億円)	05年度	06年度	07年度
売上高営業利益率	4.3%	4.9%	4.1%
総資産回転率	0.8	1.0	1.2
ROA (総資本営業利益率)	3.6%	4.9%	4.8%
ROE (自己資本当期純利益率)	12.8%	12.7%	6.4%
D/Eレシオ	2.0	1.8	1.7
海外売上高比率	25.9%	29.3%	30.2%

(ROE、D/Eレシオの自己資本は少数株主持分を除く従来ベース)

2. 08年度経営プラン

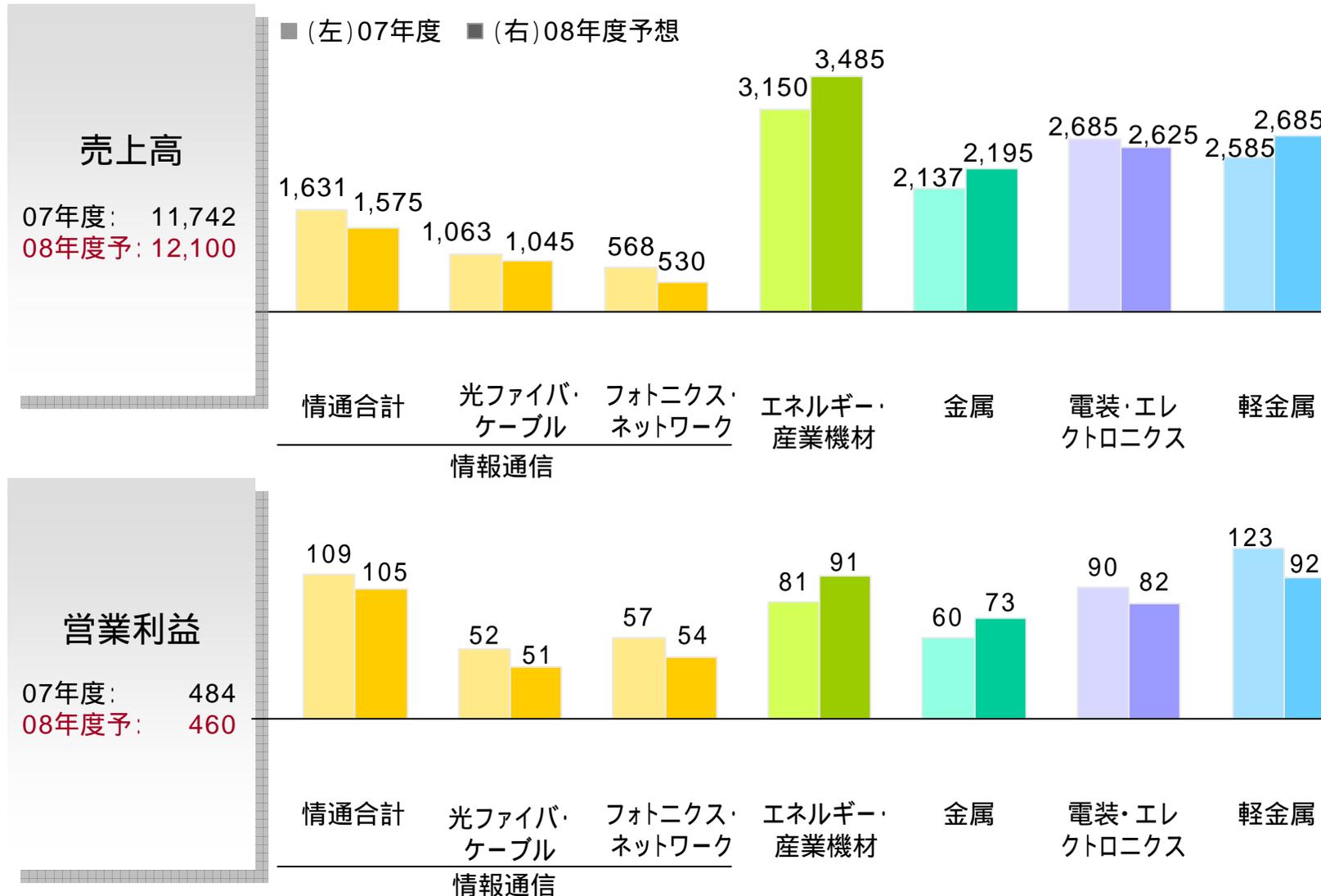
08年度 連結業績予想

FURUKAWA ELECTRIC

(単位:億円)	07実績	08予想	前年比
売上高	11,742	12,100	+358
07税制改正影響	42	51	
08税制改正影響		65	
営業利益	484	460	24
貸付金為替影響	31	65	
経常利益	408	345	63
特損益影響	98	+70	
当期利益	152	210	+58
EPS	21.8円	30.1円	+8.3円
前提数値:実績と予想			
為替(¥/\$)	114	100	
トバイ原油(\$/B)	77	111	
銅建値(¥/kg)	916	900	
アルミ日経(¥/kg)	346	300	

07/08予想 セグメント別売上高・営業利益 FURUKAWA ELECTRIC

(単位:億円)

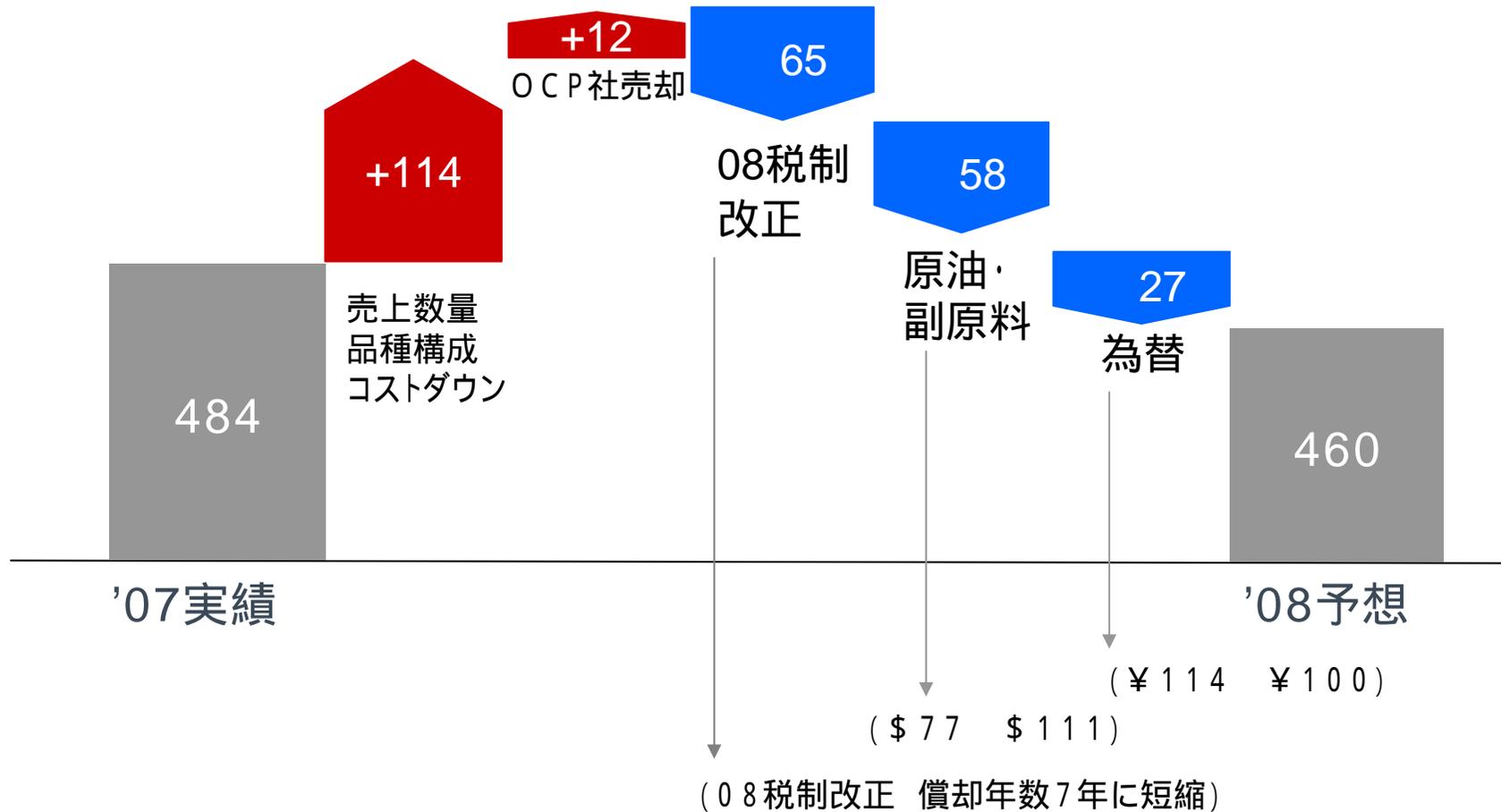


07/08予想 営業利益の増減要因分析

要因別：08税制改正、原油高を成長と自助努力でカバー

(単位:億円)

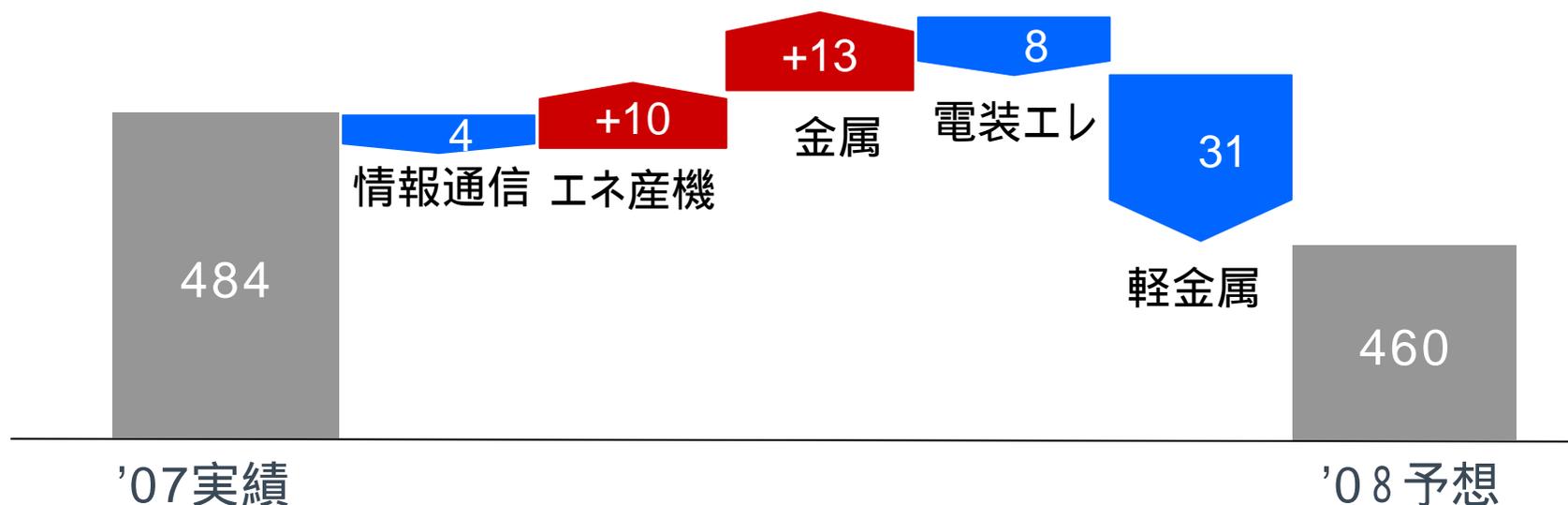
(単位:億円)



07/08予想 営業利益の増減要因分析

セグメント別: エネ産機・金属で増益も軽金属が税制影響でダウン

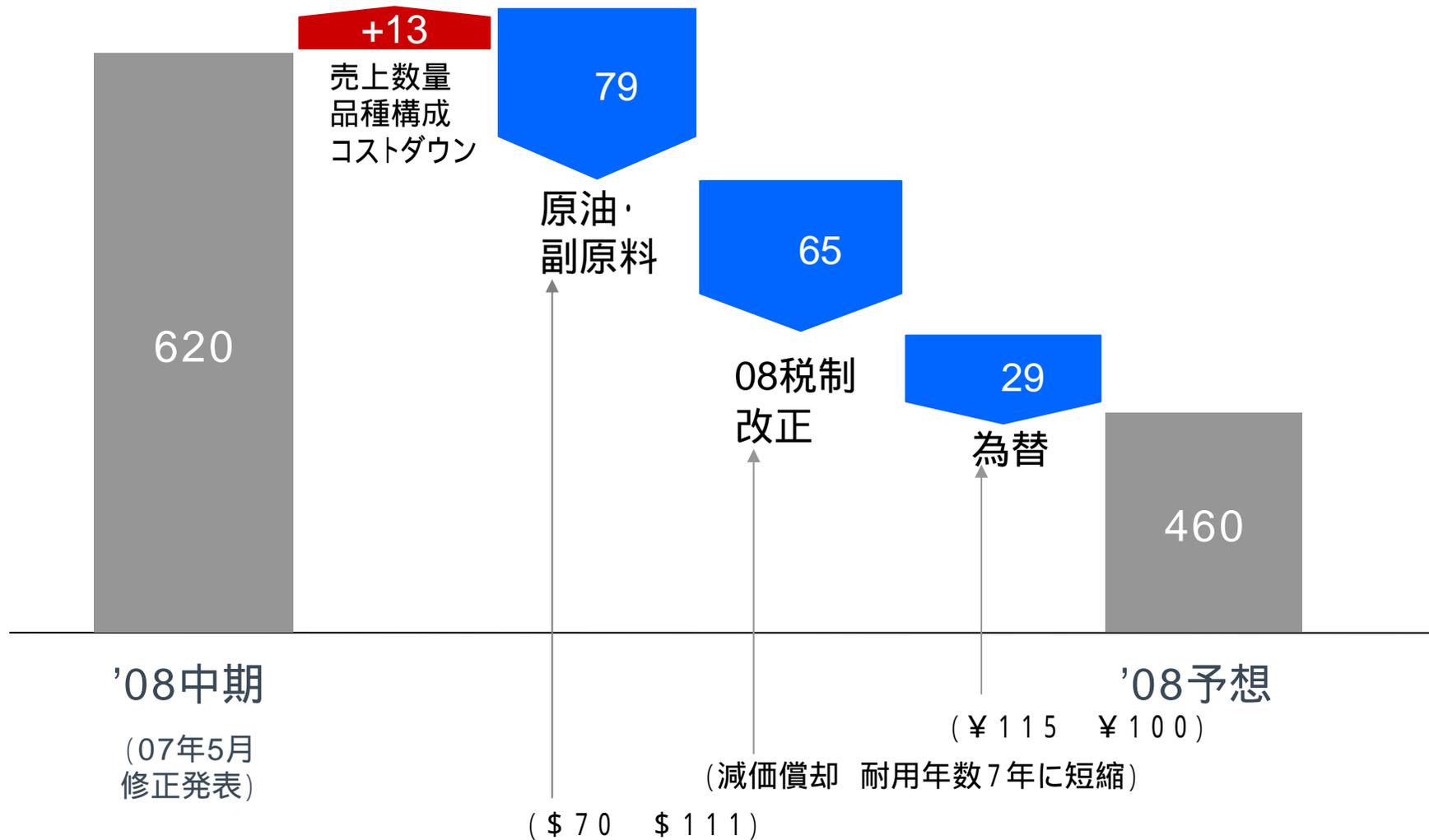
(単位: 億円)



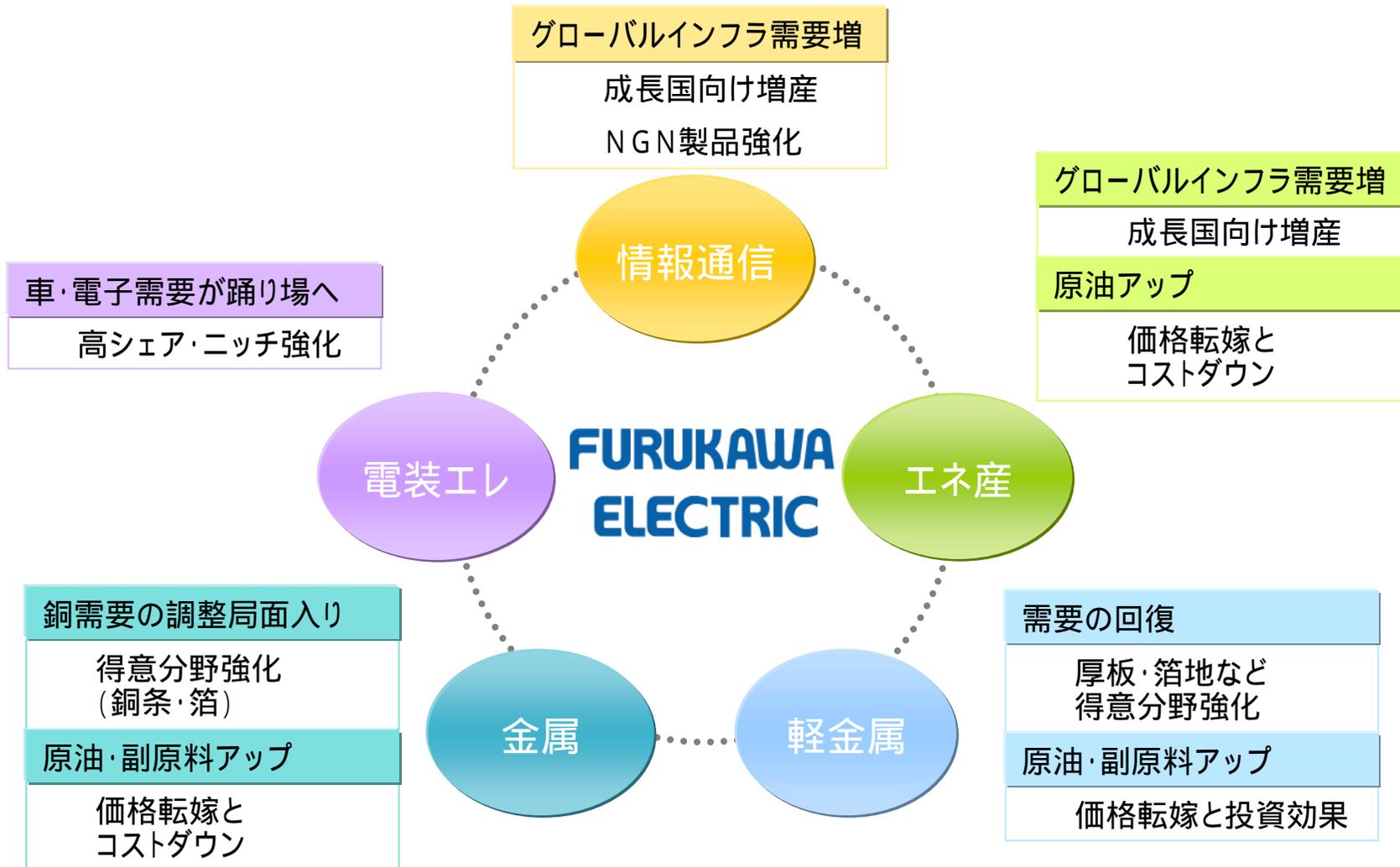
07実績比	24	(税制	65	除く税制+41)	
情報通信	4	(2	2)	海外事業で国内低迷をカバー
エネ産機	+10	(6	+16)	銅線・発泡事業が回復
金属	+13	(12	+25)	副原料値戻し・加工賃改定
電装エレ	8	(7	1)	為替が影響
軽金属	31	(36	+5)	原油・副原料高を投資効果でカバー
サービス他を除く					

08中期 / 08予想 営業利益の増減要因分析 FURUKAWA ELECTRIC

(単位: 億円)

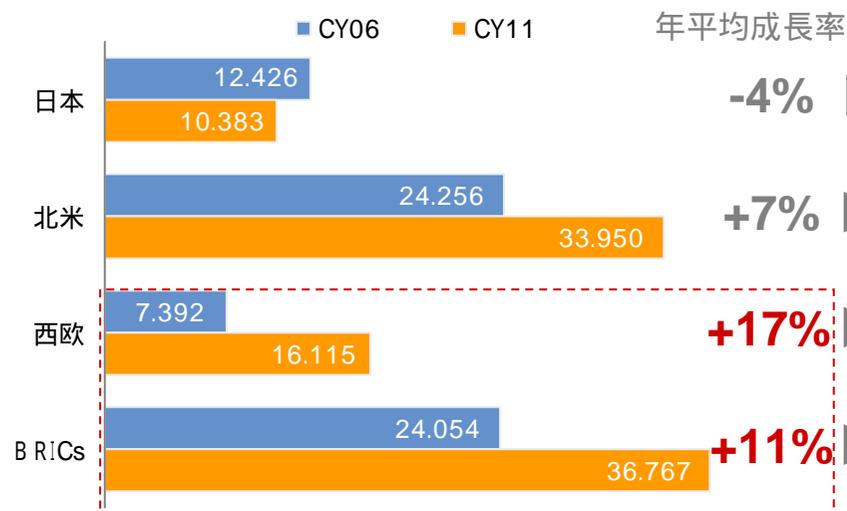


市場認識と企業価値向上に向けた取り組み



情報通信 / グローバルインフラ需要増に対応 FURUKAWA ELECTRIC

光ケーブル市場規模予想 (千km)



(資料: CRU)

光ファイバ・ケーブル当社の取り組み

ファイバのグローバル供給強化
営業体制を海外向けにシフト

OFS: 足元キャリア・一般向け好調

OFSドイツ } 能力80%増
OFSロシア }

FISA: アルゼンチンにも展開

フォトニクス・ネットワーク市場見通し

日本のNGN投資が本格化
光デバイス需要拡大

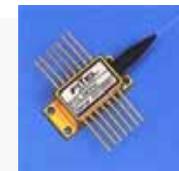
CATV市場 「光+無線」市場開拓

フォトニクス・ネットワークの新商品強化

注力する商品

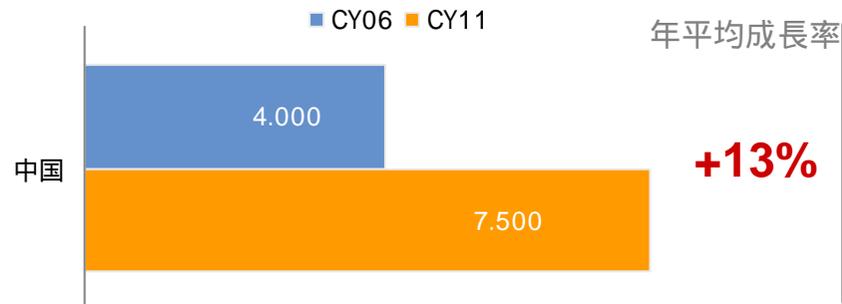
「チューナブルレーザ」 「光アンプ」

「地デジ・鉄道トンネル不感帯システム」



エネルギー / 電力分野でグローバル展開

中国高圧電力ケーブル市場(66kV以上、km)



(資料: 当社予想)

当社グループの取り組み

瀋陽古河(高圧ケーブル)

新工場設立で能力30%増

08年度売上高+35%

蘇州電力光(光複合送電線)事業拡大

F C I ジャパン電力部門買収

合併会社ビスカス(持分法)の高圧ケーブル

ビスカス: 新興国・資源国向け需要活発

最近の受注例 シンガポール 180億円

UAE 110億円

南アフリカ 60億円

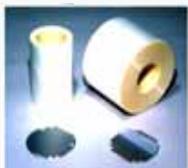
08年度売上高1,000億円超(+14%)



自動車・電子 / 高シェア・ニッチ素材のポジション強化 **FURUKAWA ELECTRIC**

08年度売上の伸び

半導体テープ



高密度立体実装用2層フィルム「DDF」の生産能力を2008年4月に倍増



+20%

電解銅箔



リチウム電池、FPC用の国内生産能力を2008年6月に20%アップ



+20%

ストレージ



HDD用アルミブランク堅調
ガラス基板は上期中に量産開始へ



+10%

自動車部品



「軽自動車×アジア」に注力
ボックス用メタルコア基板など拡販
アルミ線、銅極細線を開発強化

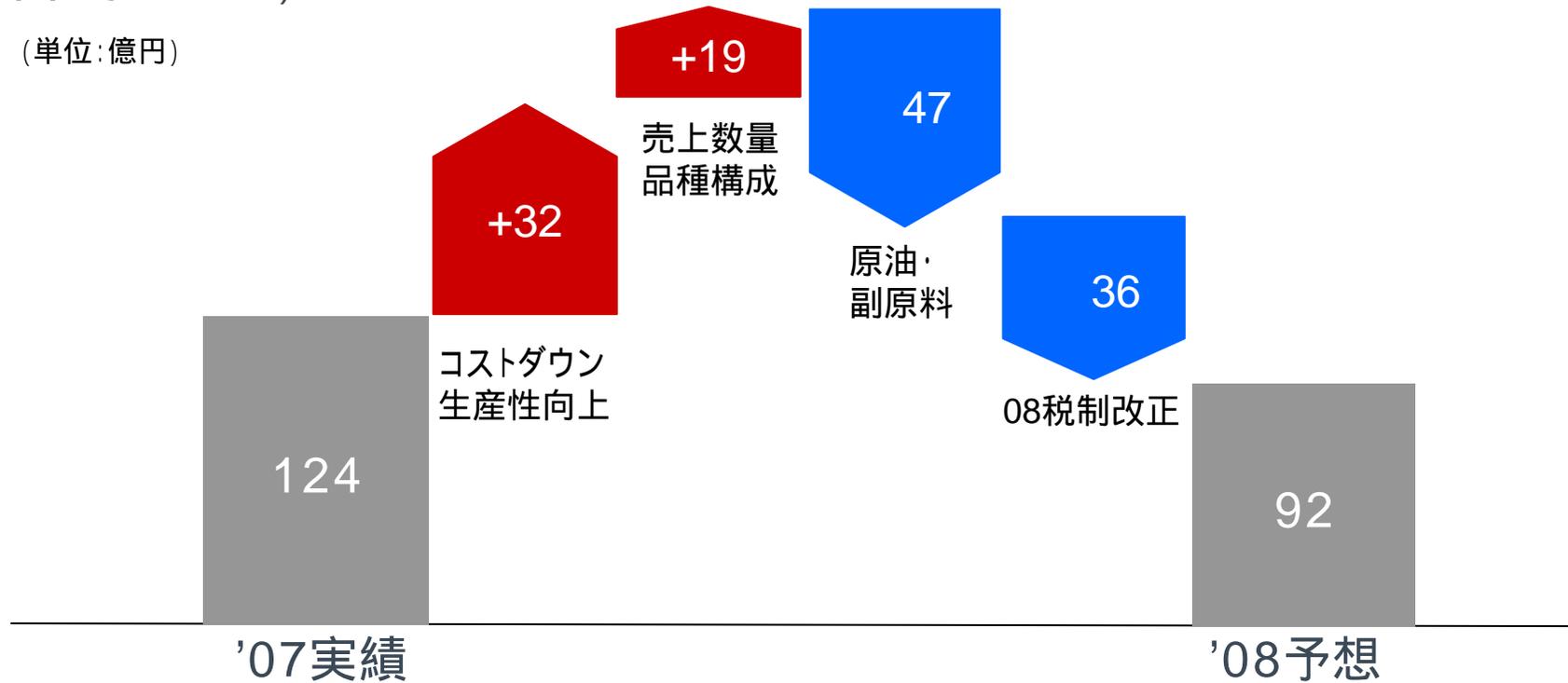


+10%

軽金属 / 原油・副原料高を生産性向上・増量でカバー FURUKAWA ELECTRIC

(古河スカイ)

(単位:億円)



国内事業の取り組み

半導体・液晶関連の需要回復

↓

得意分野の厚板拡販

海外事業の取り組み

海外への拡販強化

↓

アジア・欧州の日系ユーザー向けに缶材・印刷版・自動車熱交材を供給拡大

08年度 設備投資計画 減価償却内で実施 FURUKAWA ELECTRIC

07年度実績 (単位:億円)

設備投資 452

減価償却 421 (うち07改正分42)

08年度計画

設備投資 498

減価償却 528 (うち07改正分51、08改正分65)

08年度の主な投資内容

情報通信 OFS独光ケーブル増産、レーザ増産

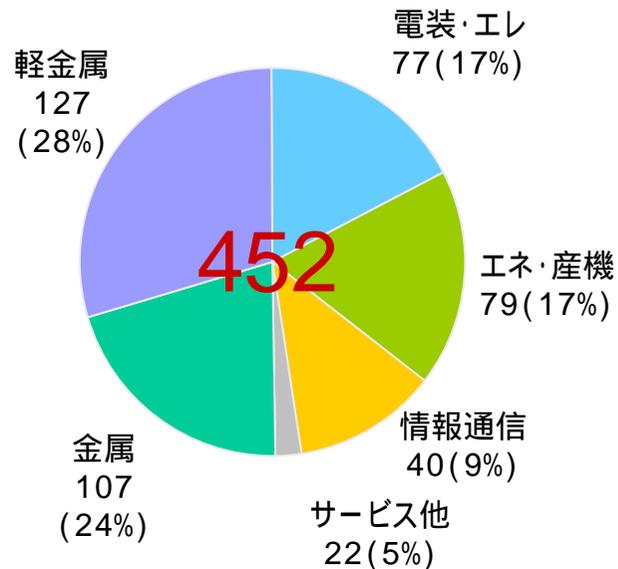
エネ産機 中国高圧ケーブル、半導体テープ増産

金属 銅条・銅箔増産

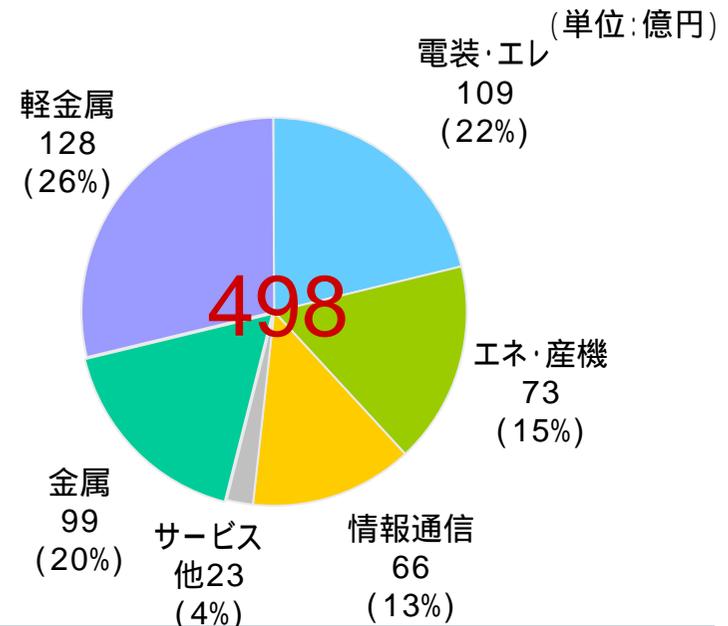
電装エレ ガラス基板量産化、ハーネス増産

軽金属 生産集約、ソーラーパネル用厚板増産

07年度実績



08年度予想



市場リスク: 収益安定性の向上へ向けて

	対前年度 《営業損益》 影響		感応度	施策
	07 年度	08 年度予想		
原油 (石化製品・燃料) 副原料 (合金用金属類)	32 億円	58 億円	1バレル1ドルの変動で±1.2億円	コストダウンや燃料転換と価格転嫁の推進
	当年度PLへの 《営業外損益》 影響		感応度	
	07年度	08年度予想		
為替 (円建貸付金630億円)	31 億円	65 億円	対ドル1円の変動で±6億円	08年1~3月で発生分は特益で相殺見込み 抜本的対策を検討中

* 銅・アルミ地金変動の営業損益への影響は長期的にはほぼニュートラル(価格スライド制導入のため)

配当について

07年度：年間7.0円

08年度：年間7.0円予定

中長期的な成長をめざす中、配当をはじめとする株主還元も機動的に行ないます。

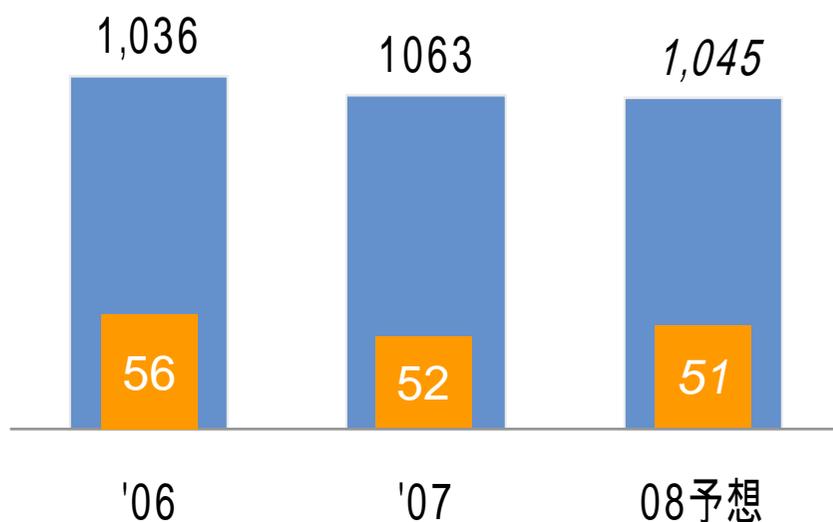
そのためにも、各損益段階での成長とリスク低減により、当期利益・EPSの向上を図ります。

3. セグメント情報

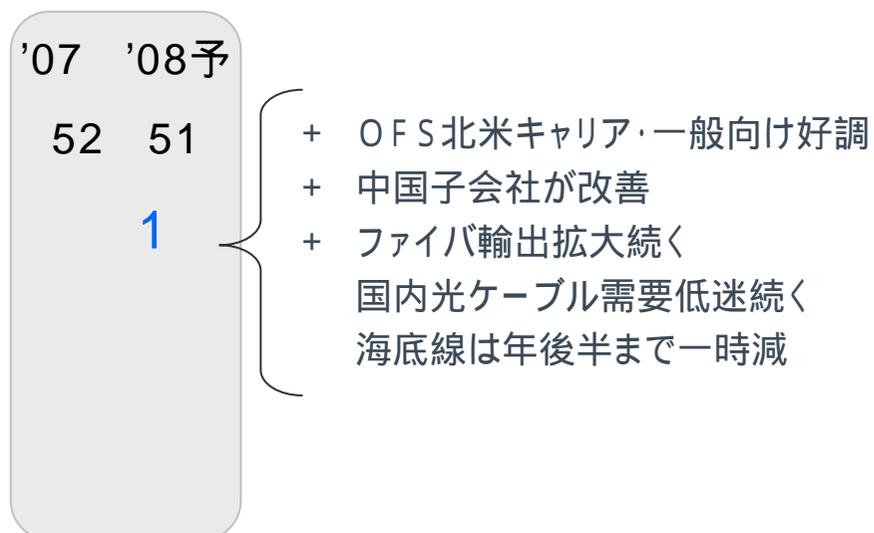
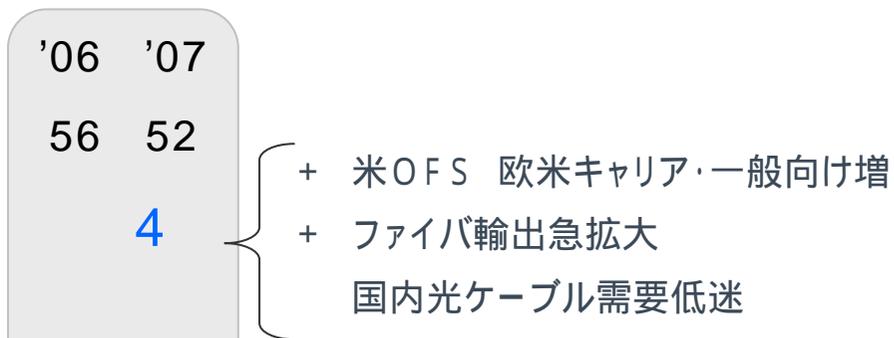
情報通信 < 光ファイバ・ケーブル >

売上高 ■ 営業利益 ■

(単位: 億円)



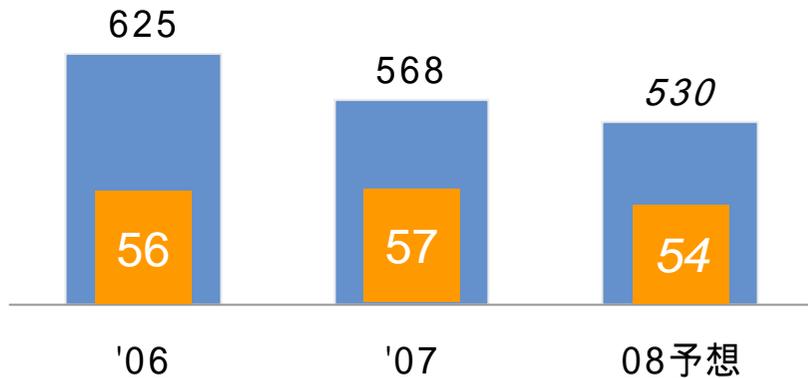
営業利益の変動要因 (単位: 億円)



情報通信 < フォトニクス・ネットワーク >

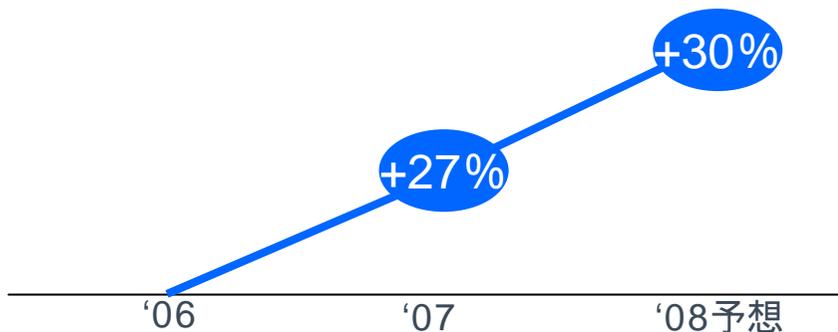
売上高 ■ 営業利益 ■

(単位:億円)

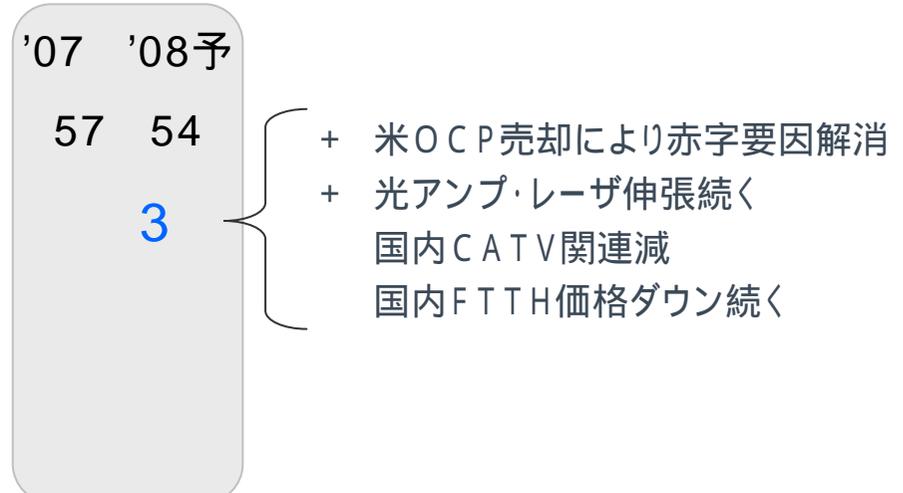
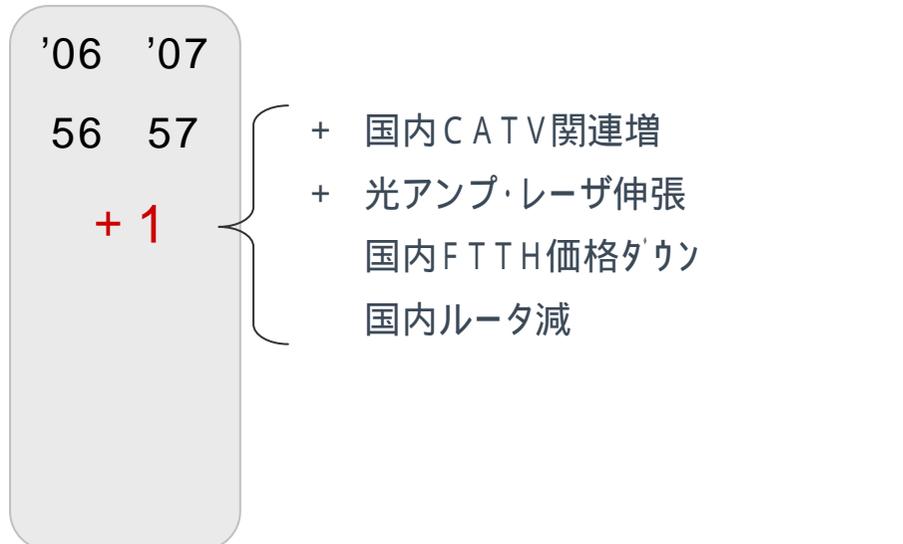


成長商品 売上高の対前年伸び率

アクティブ光部品・機器 (光アンプ、レーザ)



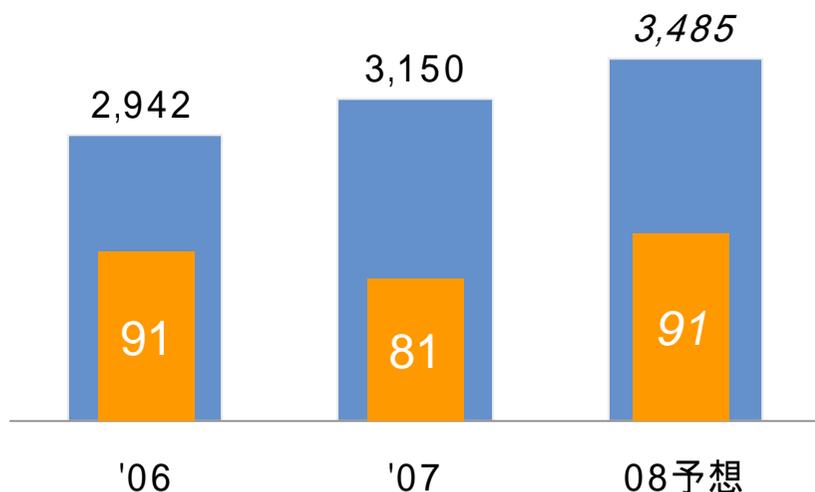
営業利益の変動要因



エネルギー・産業機材

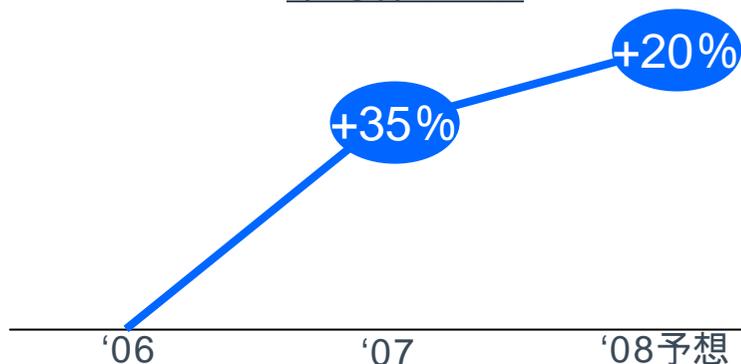
売上高 ■ 営業利益 ■

(単位:億円)

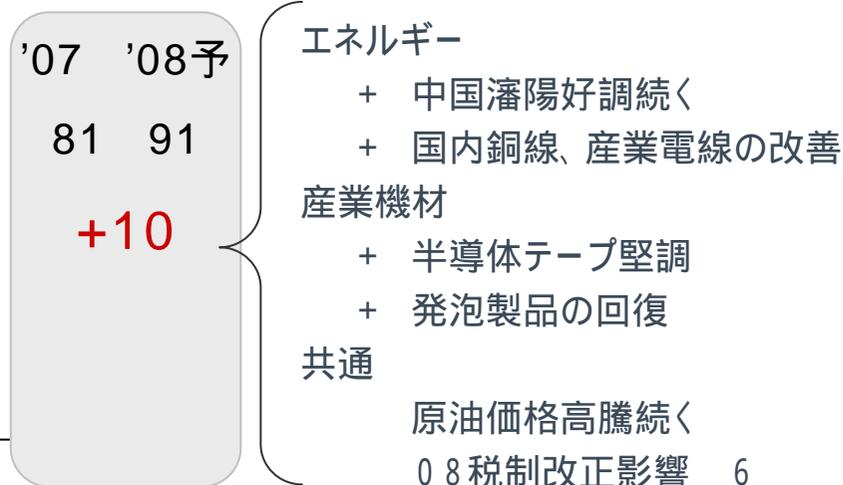
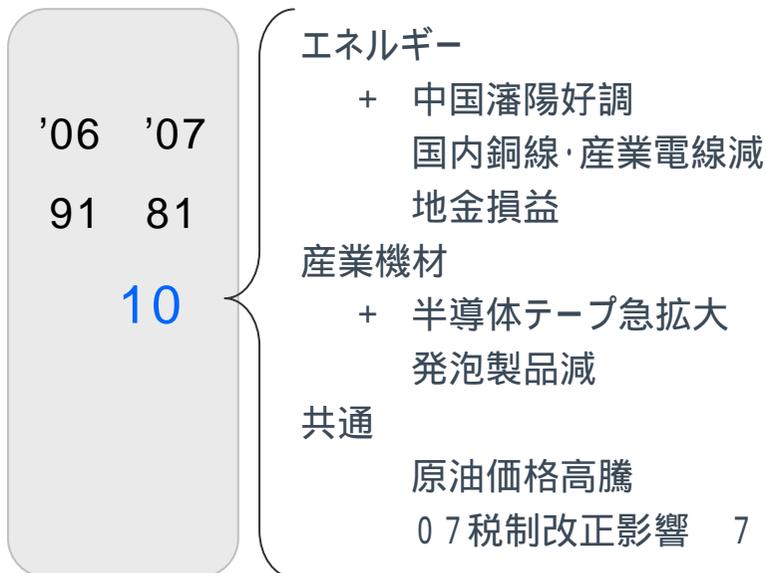


成長商品 売上高の対前年伸び率

半導体テープ



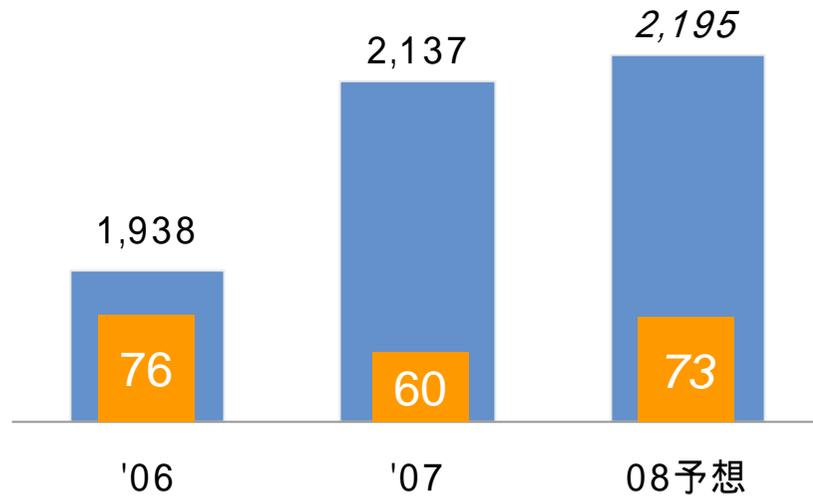
営業利益の変動要因



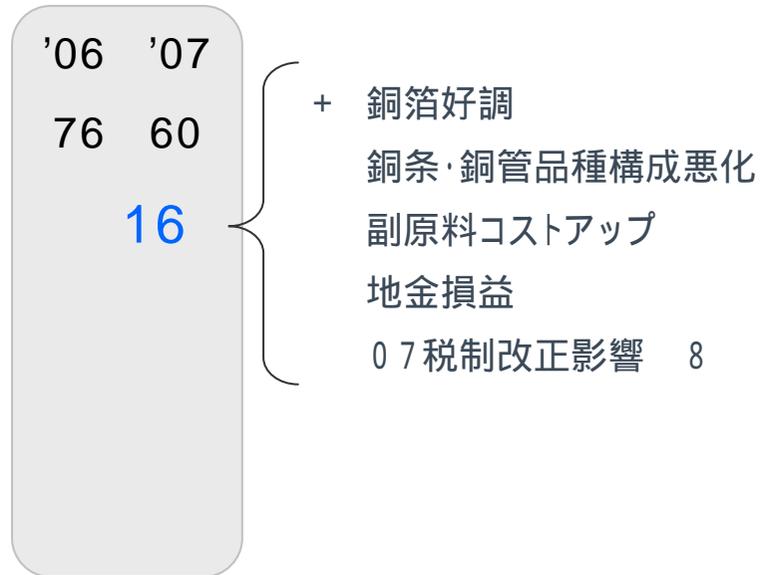
金 属

売上高 営業利益

(単位:億円)

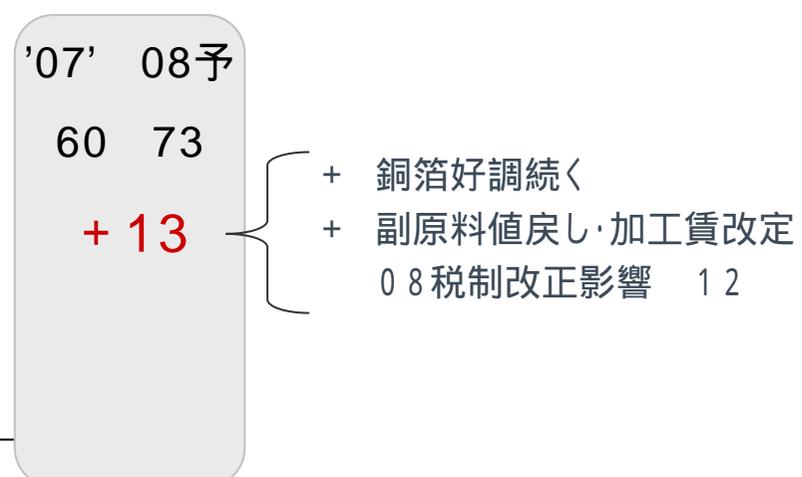
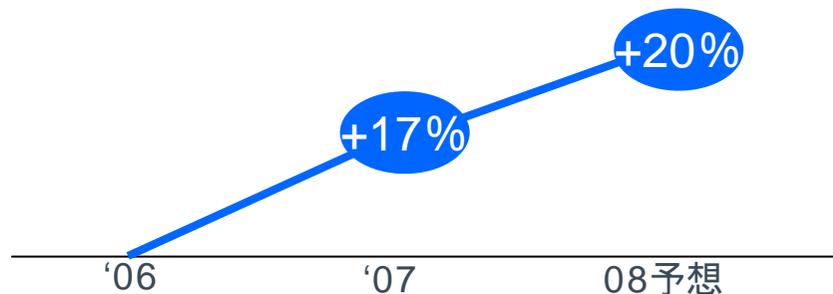


営業利益の変動要因



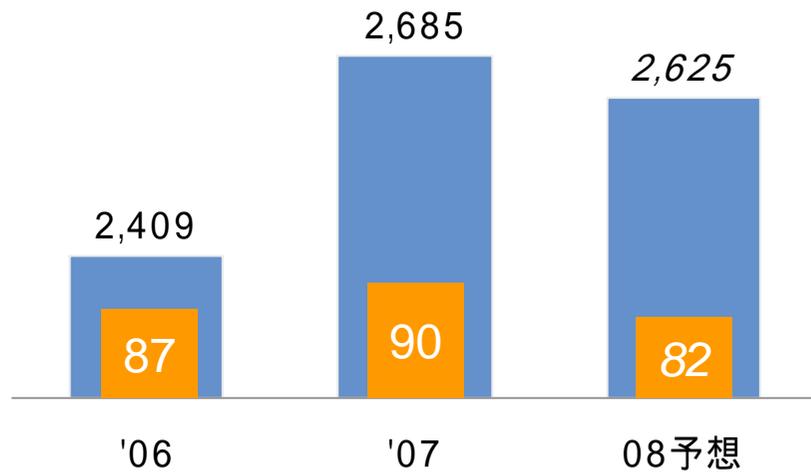
成長商品 売上高の対前年伸び率

電解銅箔

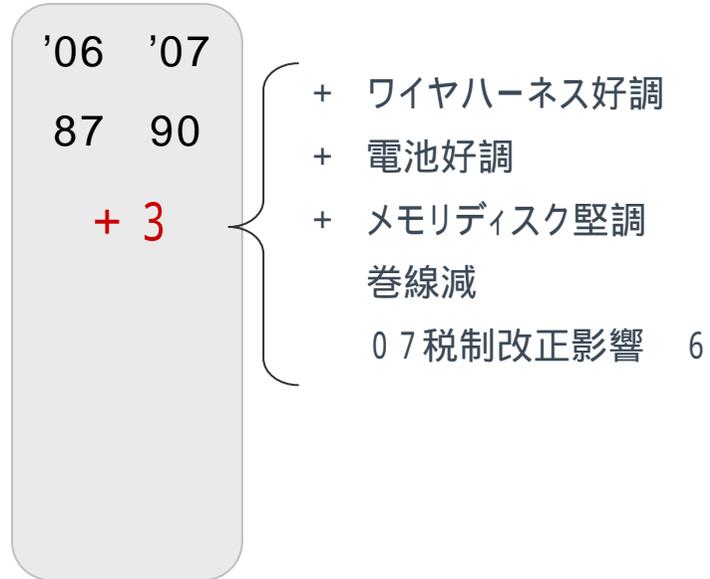


売上高 ■ 営業利益 ■

(単位:億円)

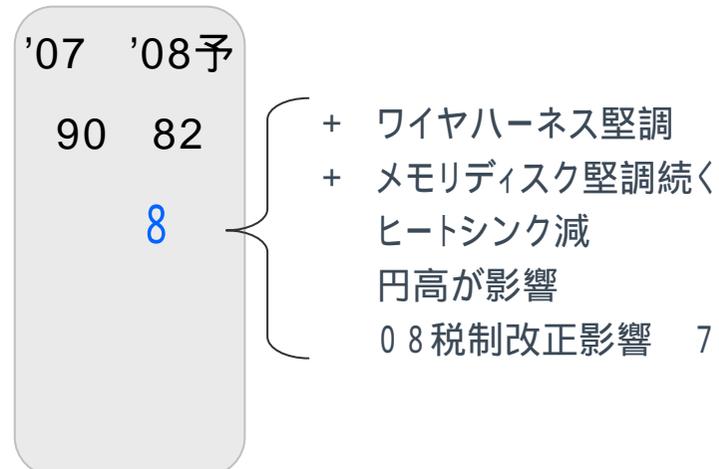
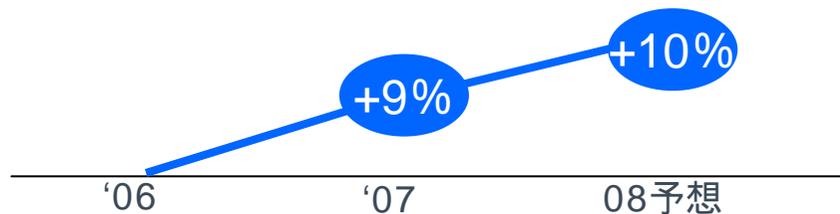


営業利益の変動要因



成長商品 売上高の対前年伸び率

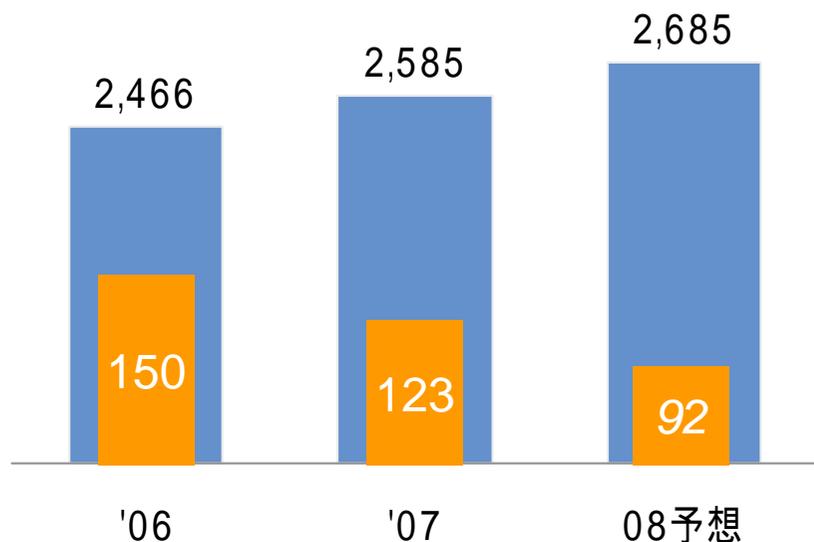
メモリディスク



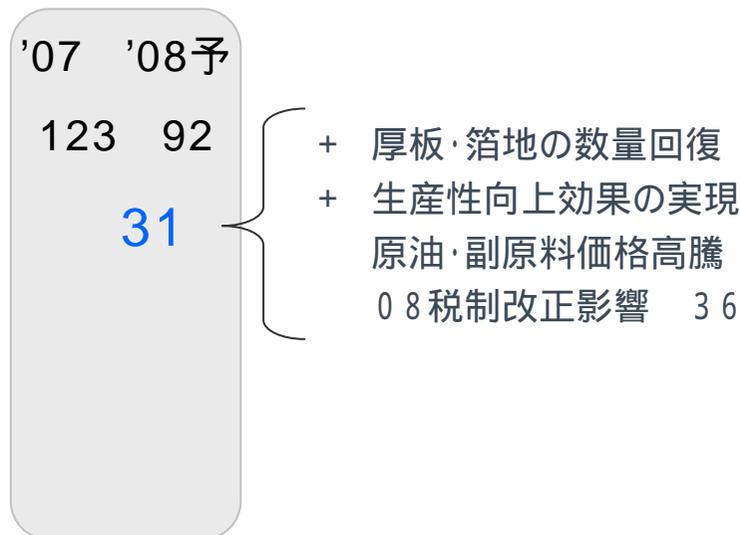
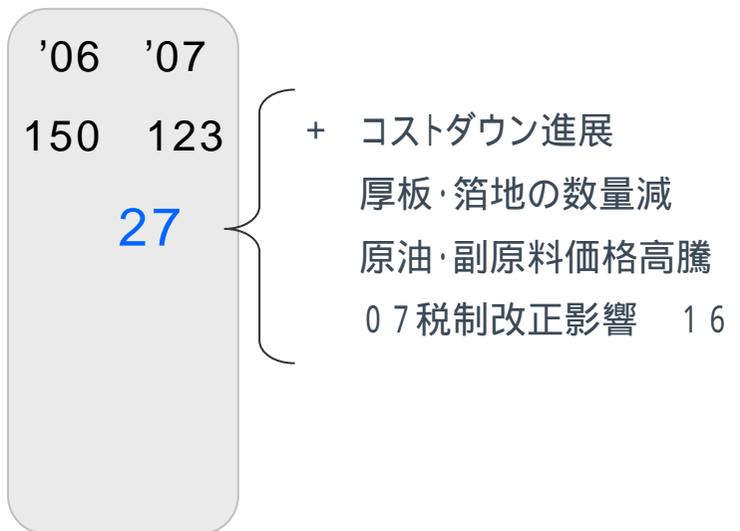
軽金属 (古河スカイグループ)

売上高 ■ 営業利益 ■

(単位:億円)



営業利益の変動要因



ご清聴ありがとうございました。

Bound to  ***Innovate***

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。